

山梨県出土の人面・土偶装飾付深鉢形土器

渡 辺 誠

- 1 はじめに
- 2 出土遺跡の分布

- 3 数量・分布と編年
- 4 おわりに

1 はじめに

筆者は吉本洋子氏との共同研究として、人面・土偶（人体文を含む）装飾付土器のうち深鉢形土器について、その基礎資料の集成と若干の検討を行ない、『日本考古学』誌上に3度に亘って発表してきた（吉本・渡辺1994・99, 2005）。その主要な成果は、それらの土器は山梨県が長野県とともに発達の中心地域であることと、死と再生観念の発達をよく示していると理解できるようになったことなどである。

人面・土偶装飾付深鉢形土器は表1に示すように、北海道西南部から岐阜県にかけての東北日本の453遺跡より750点出土している。このうち遺跡数においては長野県がもっとも多く112遺跡で、全体の約四分の一にあたる24.7%を占め、山梨県はこれに次ぎ72遺跡で15.9%を占めている。両県を合わせると約40%を占めている。隣接する東京都・神奈川県もこれらに近いが、点数においては大きな落差がある。

遺跡数と同様にもっとも点数の多いのは長野県で、179点、23.9%を占め、次いで山梨県が168点、22.4%を占めている。遺跡数に比べると長野県とほぼ同数とみることができる。両県を合わせると約46%を占め、発達の中心地域であることを明示している。図1はこの数量分布を示すものであるが、従来発表してきた分布図と異なるのは、発達の中心地域を的確に示すため、面積の広い長野県を東信・北信・中信・南信とに分けて示したことである（図1）。

上記のように長野県全体で179点出土しているが、4地域ではそれぞれ6・1・28・144点で、南信が圧倒的に多い。南信地域は、茅野市・岡谷市、諏訪郡原村・富士見町、および伊那谷の諸市町村であるが、この点数に匹敵する県は山梨県のみで、大きな差はあるが東京都・神奈川県、および福島県がこれに次いでいる。そして、山梨県を中心に南信・東京都・神奈川県地域は、人面・土偶装飾付深鉢形土器の最盛期である、縄文中期前半の勝坂文化圏に相当する。

本稿は、この中心的地域である山梨県下の資料について、3回にわたって発表したリストを整理し、特に分布に重点を置いて若干の検討を試みるものである。

2 出土遺跡の分布

山梨県出土の人面・土偶装飾付深鉢形土器は、72遺跡出土の168点である（表2）。ただし本稿では分布の検討に重点を置いているので、その法量については省略した。これについては旧稿を参照して頂きたい。また写真についても各タイプの代表的な例のみとし、同様に旧稿を参照して頂きたい。

山梨県の人面・土偶装飾付深鉢形土器出土遺跡の分布は、図2に示すとおりであるが、それらは次の9群に分類される。

- I群：県東部の上野原市などの地域。8遺跡、10点。
- II群：甲府盆地東部の甲州・笛吹市東部地域。13遺跡、63点。
- III群：甲府盆地南部の笛吹市西部・旧中道町などの地域。9遺跡、18点。
- IV群：甲府盆地中央低地域。1遺跡、1点。
- V群：甲府盆地西北部の韮崎市・旧武川村などの地域。10遺跡、26点。
- VI群：茅ヶ岳西麓・八ツ岳東南麓の北杜市地域。18遺跡、41点。
- VII群：長野県に接する旧小淵沢町地域。7遺跡、7点。
- VIII群：甲府盆地西部の南アルプス市地域。3遺跡、4点。
- IX群：県南部の旧富沢・南部町地域。2遺跡、2点。

以上によって、分布の主要地域は甲府盆地と茅ヶ岳西麓・八ツ岳東南麓部であることが分かる。一方御坂山地と富士山の間は皆無であり、県南部地域にはごく僅かにしかみられず対照的である。巨視的にはII・III群地域と、V～VII群地域が特に注目される地域である。

そして発達の過程を知る上で重要な形態分類の基準は、図2に示すとおりである。それは人面の付く高さを示すI～IVと、その向きを示すA～Cとが基準であり、不明なのはそれぞれVとDとを加え、タイプはその組合せで示している（写真1）。特にIV類はもっとも発達したタイプで、かつて顔面把手と言われていた形態で、山梨県に分布の中心がある。

まず人面の高さは、Iは胴部に、IIは口縁部直下に付き、IIIは口縁部上に突出し、IVはそれが立体化・中空化・大型

表1 都道府県別人面・土偶装飾付深鉢形土器数量表

	遺跡数 (%)	資料数 (%)
北海道	3 (0.7)	3 (0.4)
青 森	15 (3.3)	26 (3.5)
秋 田	3 (0.7)	3 (0.4)
山 形	1 (0.2)	1 (0.1)
岩 手	9 (2.0)	10 (1.3)
宮 城	4 (0.9)	9 (1.2)
福 島	29 (6.4)	52 (6.9)
茨 城	6 (1.3)	6 (0.8)
栃 木	10 (2.2)	17 (2.3)
群 馬	13 (2.9)	19 (2.5)
千 葉	8 (1.8)	11 (1.5)
埼 玉	24 (5.3)	32 (4.3)
東 京	63 (13.9)	99 (13.2)
神奈川	42 (9.3)	52 (6.9)
新 潟	19 (4.2)	29 (3.9)
富 山	1 (0.2)	1 (0.1)
山 梨	72 (15.9)	168 (22.4)
長 野	112 (24.7)	179 (23.9)
岐 阜	6 (1.3)	8 (1.1)
静 岡	13 (2.9)	26 (3.3)
計	453 (100.0)	750 (100.0)

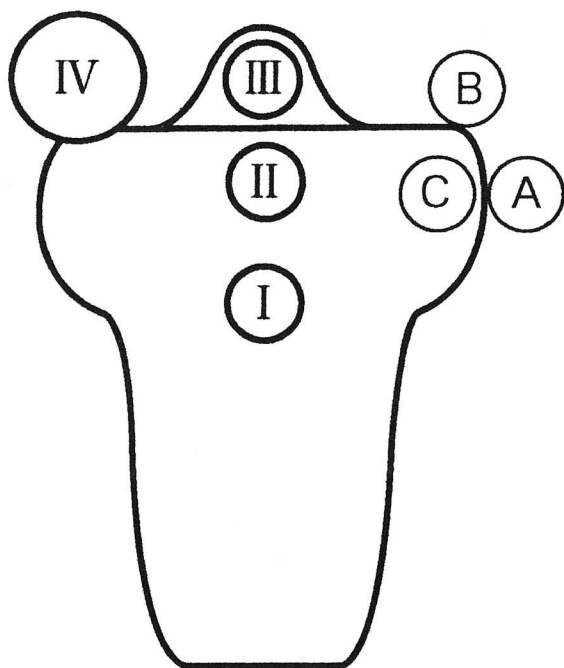


図3 人面・土偶装飾付深鉢形土器の分類基準図

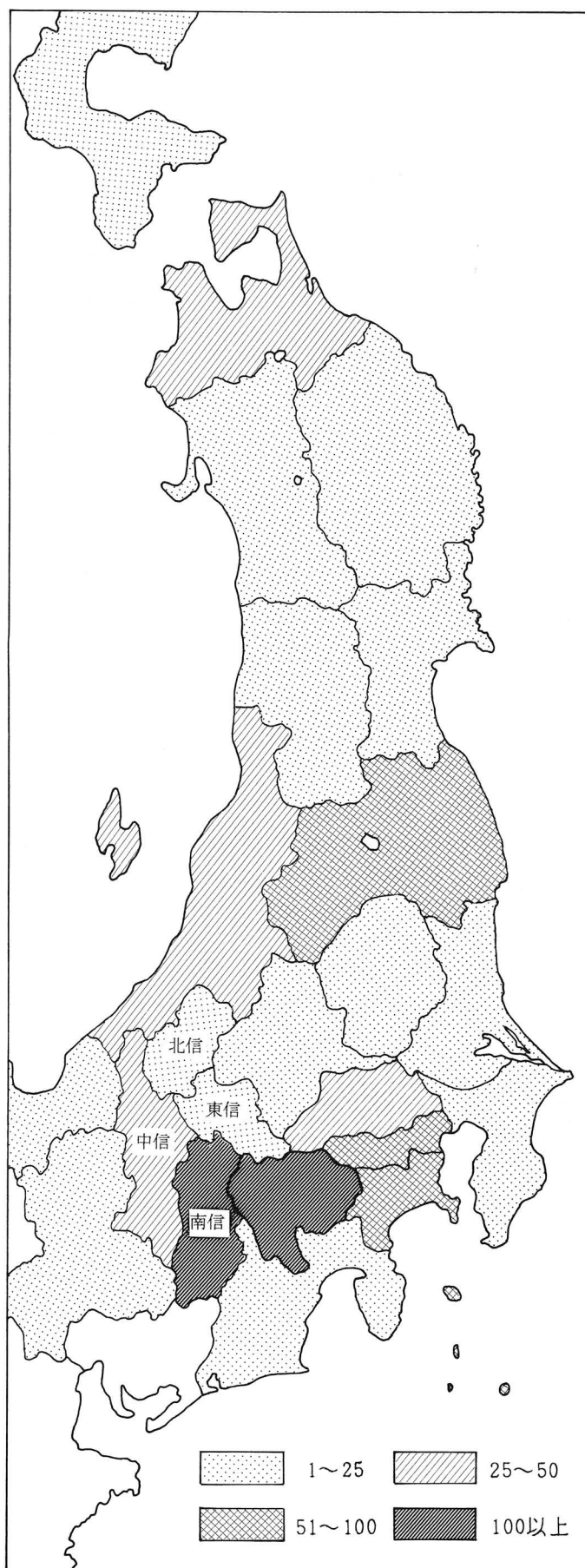


図1 都道府県別人面・土偶装飾付深鉢形土器出土数
(長野県のみ細分)

表 2 山梨県出土の人面・土偶装飾付深鉢形土器一覧表（1 遺跡 2 例漏れ、文末参照）

群	遺跡番号	旧番号	遺跡名	タイプ	時期	文献	所蔵者・機関
Ⅰ	1	149	南都留郡道志村神地遺跡	ⅣD	勝坂Ⅱ式	江坂1974、中村・奥1974	都留市教委
	2	追127	上野原市狐原遺跡	ⅣD		未報告	上野原市教委
	3	150	上野原市（旧上野原町）本町遺跡	ⅢD		仁科1935	不明
	4	追129	上野原市上野原小学校遺跡1	ⅣC	藤内式	小西1993	上野原市教委
			上野原市上野原小学校遺跡2	ⅣB	井戸尻Ⅲ式	小西1993	上野原市教委
	5	追128	上野原市大堀Ⅱ遺跡	ⅣC	藤内式	奥山1998	同遺跡調査団
		151	上野原市（旧上野原町）大堀Ⅱ遺跡	ⅣC	中期	未報告	
	6	152	上野原市（旧上野原町）西原田和遺跡	V		中村1970	不明
	7	153	大月市富浜町宮谷遺跡	ⅢC	勝坂Ⅰ式	谷口他1966	山本寿々夫氏
	8	追61	都留市九鬼Ⅱ遺跡	ⅣA	井戸尻Ⅲ式	高野他1996	山梨県埋文
Ⅱ	9	155	甲州市（旧塩山市竹森）乙木田遺跡	ⅣD	勝坂Ⅲ式	上川名1971	不明
	10	154	甲州市（旧塩山市中萩原）柳田遺跡1（北原）	ⅣC	勝坂Ⅱ式	上川名1971	不明
			甲州市（旧塩山市中萩原）柳田遺跡2（北原）	ⅣC	勝坂Ⅱ式	上川名1971	不明
	11	156	甲州市（旧塩山市）安道寺遺跡1	ⅣD	勝坂Ⅱ式	小林1978	山梨県立考古博
			甲州市（旧塩山市）安道寺遺跡2	ⅣC	勝坂Ⅱ式	小林1978	山梨県立考古博
			甲州市（旧塩山市）安道寺遺跡3	ⅣC	勝坂Ⅲ式	小林1978	山梨県立考古博
	12	追130	甲州市（旧塩山市）大木戸遺跡1	ⅡA	五領ヶ台式	石神他2003	山梨県埋文
			甲州市（旧塩山市）大木戸遺跡2	ⅢC	新道式	石神他2003	山梨県埋文
			甲州市（旧塩山市）大木戸遺跡3	ⅣA	五領ヶ台式	石神他2003	山梨県埋文
			甲州市（旧塩山市）大木戸遺跡4	ⅣC		石神他2003	山梨県埋文
	13	157	甲州市（旧塩山市）上於曽遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	野中1904	東大総合資料館
	14	158	甲州市（旧塩山市）岩堂遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	仁科1935	内田周明氏
	15	追131	山梨市高畑遺跡	DⅡA	井戸尻Ⅱ式	未報告	山梨市教委
	16	159	甲州市（旧勝沼町）小佐手遺跡	ⅣD	勝坂Ⅲ式	鳥居1924	不明
	17	160	甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡1	ⅣD		未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡2	ⅣD		未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡3	ⅣC	勝坂Ⅱ式	未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡4	ⅡA	貉沢式	未報告	釈迦堂遺跡博
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡5	ⅡA	貉沢式	未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡6	ⅡA	貉沢式	未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡7	ⅡA	貉沢式	未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡8	ⅡA	貉沢式	未報告	甲州市教委
			甲州市（旧勝沼町）宮之上遺跡9	ⅡA	五領ヶ台～貉沢式	未報告	甲州市教委
	18	161	笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区1	ⅡA	井戸尻式	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区2	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区3	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区4	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区5	ⅢD	中期	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区6	ⅡA	中期	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区7	ⅡA	中期	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区8	ⅣA	中期前半	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区9	ⅡA	中期	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区10	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区11	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区12	ⅣC	勝坂Ⅱ式	小野1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区13	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区14	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区15	ⅣD		小野1987	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区16	ⅡA	井戸尻Ⅲ式	小野1987	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区17	ⅡA	貉沢式	山梨考古博2004	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群三口神平地区18	ⅢA	貉沢式	山梨考古博2004	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群塚越北A地区	DⅢC	中期前半	小野1986	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群塚越北B地区	ⅢA	五領ヶ台式	小野1986	釈迦堂遺跡博	
		笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区1	ⅣD		長沢1987	釈迦堂遺跡博	

			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区2	ⅣC		長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区3	ⅢD	中期	長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区4	ⅣC	勝坂Ⅱ式	長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区5	ⅣC	勝坂Ⅱ式	長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区6	ⅣD		長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区7	ⅣC	勝坂Ⅱ式	畑1983	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区8	ⅣA	井戸尻式	長沢1987	釈迦堂遺跡博
			笛吹市（旧一宮町）釈迦堂遺跡群野呂原地区9	ⅢA	五領ヶ台式	長沢1987	釈迦堂遺跡博
19	追62		笛吹市（旧御坂町）桂野遺跡1	ⅣD	井戸尻式	望月他1999	笛吹市教委
	追62		笛吹市（旧御坂町）桂野遺跡2	DⅣC	藤内～井戸尻式	望月他1999	笛吹市教委
	追62		笛吹市（旧御坂町）桂野遺跡3	ⅣC	井戸尻式	望月他2004	笛吹市教委
	追62		笛吹市（旧御坂町）桂野遺跡4	ⅢA	五領ヶ台式	望月他2004	笛吹市教委
	追62		笛吹市（旧御坂町）桂野遺跡5	ⅣD	新道式	望月他2004	笛吹市教委
20	162		笛吹市（旧御坂町）上黒駒遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	谷口1959	笛吹市教委
Ⅲ	21	163	笛吹市（旧境川村）一の沢西遺跡1	ⅣC	勝坂Ⅱ式	長沢・中山1986	山梨県立考古博
		163	笛吹市（旧境川村）一の沢西遺跡2	ⅣC	勝坂Ⅱ式	長沢・中山1986	山梨県立考古博
	22	追132	笛吹市（旧境川村）西原遺跡1	ⅣC	井戸尻式	野崎2002	笛吹市教委
			笛吹市（旧境川村）西原遺跡2	ⅣC	藤内式	野崎2002	笛吹市教委
			笛吹市（旧境川村）西原遺跡3	DⅡC	中期	野崎2002	笛吹市教委
	23	追133	笛吹市（旧境川村）金山遺跡1	ⅢC	新道式	野崎2002	笛吹市教委
			笛吹市（旧境川村）金山遺跡2	ⅢC	藤内式	野崎2002	笛吹市教委
	24	164	笛吹市旧境川村方面	ⅣD		未報告	山寺仁太郎氏
	25	167	甲府市（旧中道町）上ノ平遺跡1	ⅣD	井戸尻式	中山1987	山梨県立考古博
		41	甲府市（旧中道町）上ノ平遺跡2	ⅢA	五領ヶ台式	村石1994	山梨県埋文
		41	甲府市（旧中道町）上ノ平遺跡3	ⅣD	井戸尻式？	未報告	山梨県埋文
	26	165	甲府市（旧中道町）村上遺跡	ⅣC	井戸尻Ⅲ式	長沢・中山1986	山梨県立考古博
	27	166	甲府市（旧中道町）上ノ原遺跡	ⅣD		中道町1972	青山学院大
	28	追63	甲府市（旧中道町）後呂遺跡1	ⅣC	曾利Ⅰ式	未報告	甲府市教委
		追63	甲府市（旧中道町）後呂遺跡2	ⅣA	井戸尻式	未報告	甲府市教委
		追63	甲府市（旧中道町）後呂遺跡3	ⅣC	井戸尻式	未報告	甲府市教委
	29	追134	中央市（旧豊富村）駒平遺跡1	ⅡA	中期初頭	岡野1988	中央市教委
			中央市（旧豊富村）駒平遺跡2	ⅢA	中期初頭	岡野1988	中央市教委
Ⅳ	30	168	甲府市上石田遺跡	ⅣD	勝坂Ⅲ式	上川名1977	不明
V	31	169	甲斐市（旧双葉町）塩崎遺跡	ⅣD		中村1979	不明
	32	170	韮崎市宮久保飯米場遺跡1	ⅣD		中村1979	三枝善衛氏
		170	韮崎市宮久保飯米場遺跡2	ⅣD		中村1979	不明
		170	韮崎市宮久保飯米場遺跡3	V		中村1979	不明
		171	韮崎市宮久保飯米場遺跡4	DⅣC	勝坂Ⅱ式	柴田1910	東京国立博
	33	172	韮崎市坂井遺跡1	ⅣC	勝坂Ⅱ式	志村1965	坂井考古館
		172	韮崎市坂井遺跡2	DⅣC	勝坂Ⅱ式	志村1965	坂井考古館
		172	韮崎市坂井遺跡3	DⅣD	中期前半	志村1965	坂井考古館
		172	韮崎市坂井遺跡4	ⅣC	勝坂Ⅱ式	志村1965	坂井考古館
	34	173	韮崎市天神前遺跡	ⅣC	勝坂Ⅰ式	志村1965	坂井考古館
	35	174	韮崎市宿尻遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	中山・丸山1994	山梨県立考古博
	36	追141	韮崎市石之坪遺跡1	DⅢA		櫛原他2000	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡2	ⅠA	猪沢式	閨間他2001	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡3	ⅠA	曾利式	閨間他2001	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡4	ⅢA	五領ヶ台式	閨間他2001	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡5	ⅣA	新道式	閨間他2001	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡6	ⅣC	井戸尻式	閨間他2001	韮崎市教委
			韮崎市石之坪遺跡7	ⅣD	井戸尻式	閨間他2001	韮崎市教委
	37	追143	北杜市（旧武川村）東原B遺跡	ⅢC	新道式	未報告	北杜市埋文
	38	追144	北杜市（旧武川村）向原遺跡1	ⅣB	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
			北杜市（旧武川村）向原遺跡2	ⅣC	中期	未報告	北杜市埋文
			北杜市（旧武川村）向原遺跡3	ⅣD	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
			北杜市（旧武川村）向原遺跡4	ⅣC	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
	39	追142	北杜市（旧武川村）実原A遺跡1	ⅡA	五領ヶ台式	未報告	北杜市埋文

			北杜市（旧武川村）実原A遺跡2	ⅢC	新道式	未報告	北杜市埋文
Ⅵ	40	175	北杜市（旧明野村）上手遺跡	V		中村1970	不明
	41	追65	北杜市（旧明野村）平林遺跡	ⅣC	井戸尻式	佐野1997	北杜市埋文
	42	追135	北杜市（旧明野村）諏訪原遺跡	DⅡA	新道式	佐野2004	北杜市埋文
	43		北杜市（旧須玉町）上ノ原遺跡	ⅢC	称名寺Ⅱ		北杜市埋文
	44	176	北杜市（旧須玉町）下津金遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	小林1954	不明
	45	177	北杜市（旧須玉町）御所前遺跡1	ⅣC	勝坂Ⅲ式	山路他1987	北杜市埋文
		177	北杜市（旧須玉町）御所前遺跡2	ⅡA	中期末	未報告	北杜市埋文
	46	追136	北杜市（旧高根町）下原遺跡	ⅣC	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
	47	178	北杜市（旧高根町）安都玉横森遺跡	ⅣC	中期	中村1970	不明
	48	追66	北杜市（旧高根町）当町遺跡1	ⅡA	谿沢式	雨宮1987	北杜市埋文
		追66	北杜市（旧高根町）当町遺跡2	ⅡA	谿沢式	雨宮1987	北杜市埋文
		追66	北杜市（旧高根町）当町遺跡3	ⅡA	谿沢式	雨宮1987	北杜市埋文
		179	北杜市（旧高根町）当町遺跡4	ⅣD	勝坂Ⅰ式	谷口1967	不明
	49	追67	北杜市（旧高根町）海道前C遺跡1	ⅣC	井戸尻式	未報告	山梨県埋文
		追67	北杜市（旧高根町）海道前C遺跡2	ⅣC	井戸尻式	未報告	山梨県埋文
	50	追68	北杜市（旧高根町）宮の前遺跡1	ⅡA	新道式	未報告	北杜市埋文
	51	追68	北杜市（旧高根町）西ノ原遺跡	ⅣC	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
	52	追68	北杜市（旧高根町）新井遺跡	ⅣC	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
	53	追70	北杜市（旧大泉村）古林Ⅳ遺跡	ⅣC	井戸尻Ⅰ式	未報告	北杜市埋文
	54	追71	北杜市（旧大泉村）甲ッ原遺跡1	ⅡA	新道式	山本他1996	山梨県埋文
		追71	北杜市（旧大泉村）甲ッ原遺跡2	ⅣD	井戸尻式	山本他1996	山梨県埋文
		追71	北杜市（旧大泉村）甲ッ原遺跡3	ⅡC	中期前半	山本他1996	山梨県埋文
		追71	北杜市（旧大泉村）甲ッ原遺跡4	ⅢB	谿沢式	山梨考古博2004	山梨県埋文
		追71	北杜市（旧大泉村）甲ッ原遺跡5	ⅣA	井戸尻式	山梨考古博2004	山梨県埋文
	55	追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡1	DⅢC	谿沢式	伊藤1996	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡2	ⅡA	新道式	伊藤1996	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡3	ⅡA	谿沢式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡4	ⅢC	谿沢式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡5	ⅣC	谿沢式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡6	ⅢC	谿沢式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡7	ⅣC	藤内式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡8	DⅢC	新道式	未報告	北杜市埋文
		追72	北杜市（旧大泉村）寺所第2遺跡9	ⅣC	井戸尻式	未報告	北杜市埋文
	56	追137	北杜市（旧長坂町）原町農高前遺跡1	ⅣC	新道式	未報告	山梨県埋文
			北杜市（旧長坂町）原町農高前遺跡2	ⅣC	井戸尻Ⅰ～Ⅱ式	未報告	山梨県埋文
			北杜市（旧長坂町）原町農高前遺跡3	ⅣC	新道式	未報告	山梨県埋文
	57	追69	北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡1	ⅡA	中期前半	野代他1997	山梨県埋文
		追69	北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡2	ⅣD	井戸尻式	野代他1997	山梨県埋文
		追69	北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡3	ⅣD	井戸尻式	野代他1997	山梨県埋文
		追69	北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡4	ⅠA	井戸尻式	野代他1997	山梨県埋文
		追69	北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡5	ⅢA	新道式	小宮山1998	北杜市埋文
Ⅶ	58	181	北杜市（旧小淵沢町）宮久保遺跡	ⅣC	藤内Ⅱ式	藤森1968	井戸尻考古館
	59	182	北杜市（旧小淵沢町）高野淵平遺跡	ⅣC	中期	船窪1930	不明
	60	183	北杜市（旧小淵沢町）岩久保遺跡	ⅣD		武藤1962	不明
	61	184	北杜市旧小淵沢町内	V		中村1970	不明
	62	追138	北杜市（旧白州町）上小用遺跡群	ⅣC	新道～藤内式	未報告	北杜市埋文
	63	追73	北杜市（旧白州町）雑木遺跡	ⅡA	十三菩提式	杉本1997	北杜市埋文
	64	185	北杜市（旧白州町）鳳来遺跡	ⅣC	勝坂Ⅱ式	志村1965	山寺仁太郎氏
Ⅷ	65	追139	南アルプス市（旧櫛形町）北浦C遺跡1	ⅣC	井戸尻式	未報告	南アルプス市教委
			南アルプス市（旧櫛形町）北浦C遺跡2	ⅣC	井戸尻式	未報告	南アルプス市教委
	66	追140	南アルプス市（旧櫛形町）長田口遺跡	ⅡA	五領ヶ台式	山下他2000	山梨県埋文
	67	追64	南アルプス市（旧櫛形町）鋳物師屋遺跡	DⅢC	藤内Ⅰ式	清水1998	南アルプス市教委
Ⅸ	68	186	南巨摩郡旧富沢町城台遺跡	ⅣD	井戸尻式	山本1971	南部町教委
	69	追145	南巨摩郡南部町天神堂遺跡	ⅡA	井戸尻式	櫛原2004	南部町教委
	70	187	県下	DⅣC	勝坂式	未報告	小淵沢小

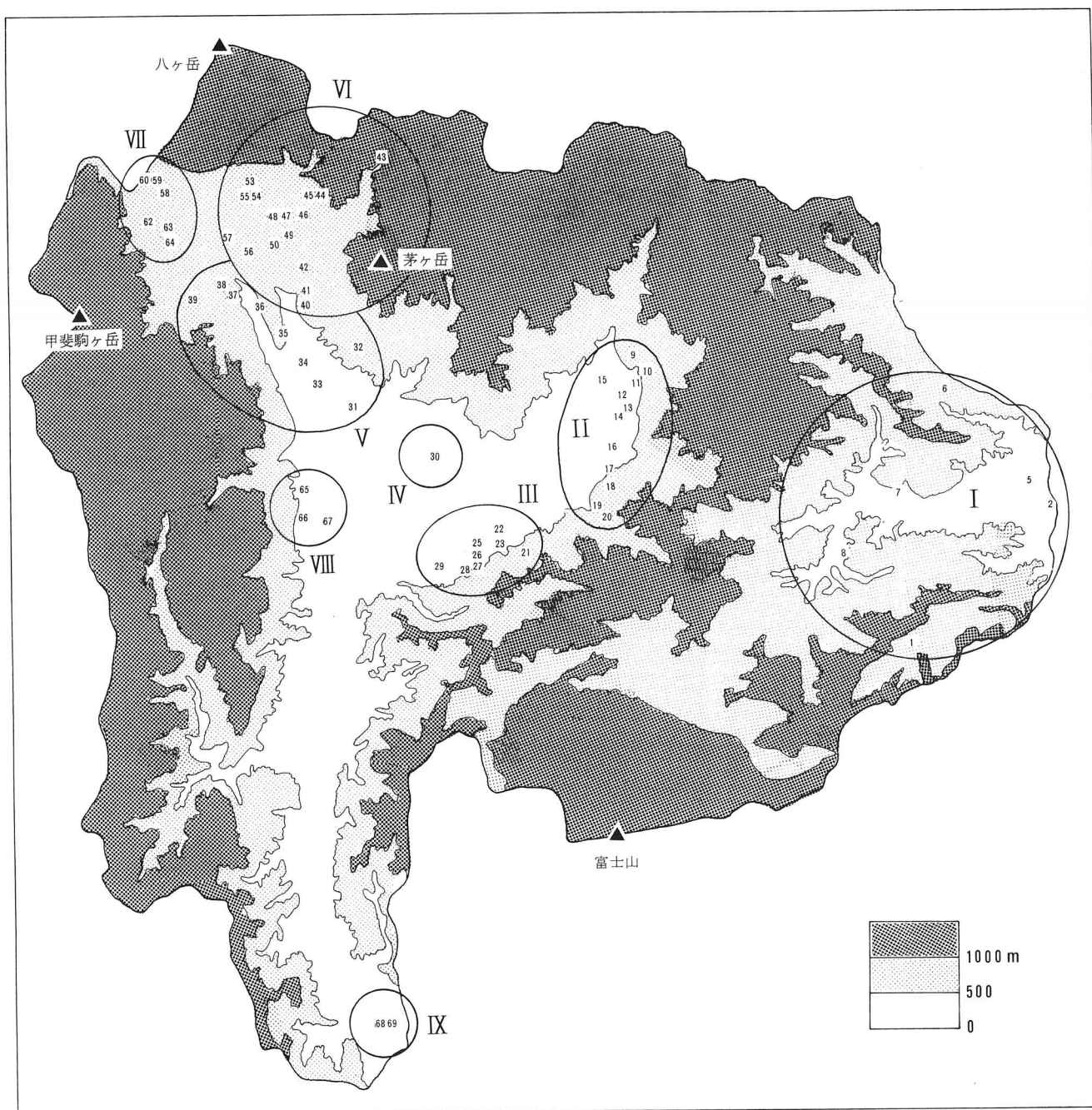


図2 山梨県下における人面・土偶装飾付深鉢形土器出土遺跡と群別

化したものを示している。ただしⅠはⅣに伴って出現することが、編年上明らかである。典型的な例は、北杜市須玉町津金御所前遺跡出土土器であるが、突出した人面は他のタイプと同様に女神であるのに対し、Ⅰはその子供神とみることができる。

次に人面の向きは、Aは外、Cは内を向いているが、Bは内外両面に付いている。したがってⅡは、ⅡA類しかみられず、次いでⅢA類になって、ⅢC・ⅢB類などのバリエーションが生まれてくるのである。

3 数量・分布と編年

人面・土偶装飾付土器の各タイプと群別との関係は、表

3に示すとおりである。

これを編年的にみれば、まず前期末の十三菩提式期にⅡA類が出現し、中期初頭の五領ケ台式、貉沢式になるとⅡA類が急増し、ⅢA類も出現発達する。そしてこれに次ぐ中期前半の勝坂・藤内・井戸尻式期は、Ⅳ類の最盛期である。

ⅡA類が前期末に出現したのは、Ⅶ群の北杜市白州町雑木遺跡であるが、中期初頭になるとⅠ・Ⅳ群を除く全域に拡散する。しかしⅢ類になるとⅠ群にみられるようになる一方、Ⅶ・Ⅷ群にはみられなくなる。またⅡ・Ⅵ群の数量が増加する。そしてⅣ類は全域にみられるようになるが、Ⅱ・Ⅵ群の優勢は継承され、Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ群がこれに次いで



写真1 人面・土偶装飾付深鉢形土器の諸形態

1 : IA類 (酒呑場遺跡第4例), 2 : IIA類 (寺所第2遺跡第1例)
3 : IIIA類 (酒呑場遺跡第5例), 4 : IVC類 (海道前C遺跡第1例)

表3 群別人面・土偶装飾付深鉢形土器数量表

群	遺跡数	資料数	分類別数量								
			I	II	III	IV	V	DI	DII	DIII	DIV
I	8	10			2	7	1				
II	12	58		13	7	35			1	1	1
III	9	18		1	4	12			1		
IV	1	1				1					
V	10	26	2	1	3	14	1			1	
VI	18	41	1	10	5	21	1		1	2	3
VII	7	7		1		5	1				
VIII	3	4		1		2				1	
IX	2	2		1		1					
県内	1	1									1
計	71	168	3	28	21	98	4	0	3	5	5

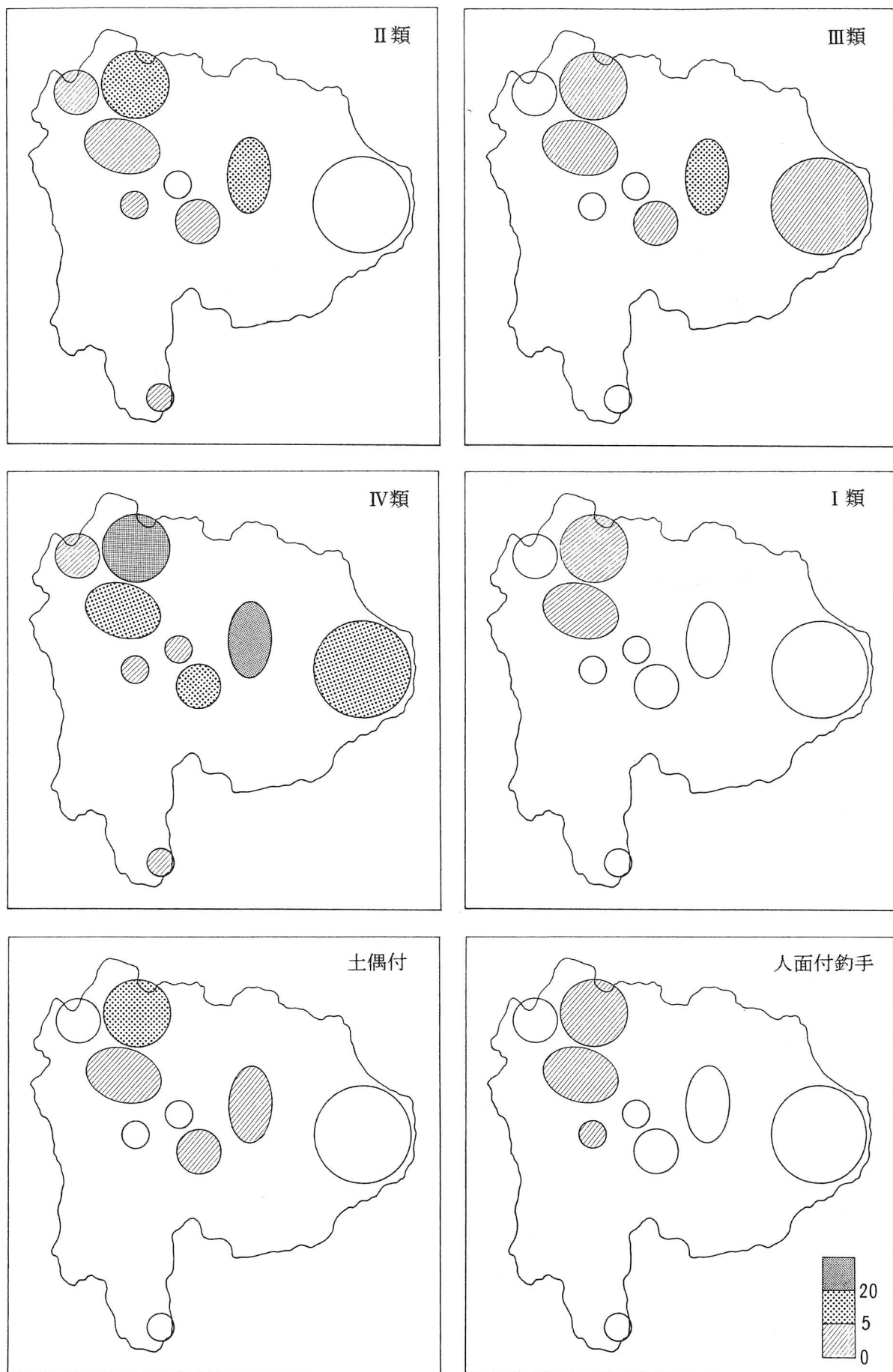


図4 各形態の群別分布図

いる。そうした傾向のなかで、Ⅳ群にもはじめてⅣ類が分布するようになる。またⅠ類も、Ⅴ・Ⅵ群にみられるようになる(図3)。

すなわち甲府盆地から八ツ岳東南麓にかけての、Ⅱ～Ⅷ群地域が重要地域であることが明らかである。土偶付土器もこの地域内に分布している。また人面装飾付釣手土器も、このなかのⅤ・Ⅵ群とⅧ群とにみられ(渡辺 1995)、この地域の重要性がさらにはっきりと示されている。

4 おわりに

そもそも人面・土偶装飾付土器の重要性は、「死と再生」の観念の出現発達と、日本人の精神世界の源流を示唆するものと理解されるからである(渡辺2004他)。このことをさらに明確にするために、形態観察・出土状態の検討などをさらに詳しく行なわなければならない。しかも山梨県はその発達の中心地域であるから、他地域よりも研究について大きな役割を果たしていく必要がある。

そして本稿において重要地域が限定されてきたが、その隣接地域として長野県の南信地域も同様に重要であり、今後両地域をあわせて検討を進める必要がある。

そしてなによりも、「死と再生」観念の出現発達を促した生業の基盤を、真摯に追求して必要がある。当然藤森栄一氏の中期農耕論を避けては通れない。この問題は土器偏重研究の陰に隠れ、一部の研究者を除きほとんど無視に近い状況である。全体的に縄文研究の改善を進めていきたいものである。

謝 辞

本稿をまとめるに際し、多くの方々の御教示と御協力を仰いだ。とりわけ筆者たちの目的に沿った撮影を行なうために、諸先生・諸兄姉、および諸機関の暖かいご配慮を仰いだ。末尾ながら銘記して、深謝の意を表する次第である(五十音順、敬称略)

秋山圭子・雨宮正樹・新井正樹・伊藤公明・出月洋文・伊野和紀・関間俊明・岡野秀典・岡部昌晃・奥山和久・小野正文・小林和広・坂口広太・佐野 隆・志村富三・末木健・杉本 充・瀬田正明・芹沢 昇・田代 孝・谷口一夫・田原良信・長沢宏昌・中山誠二・奈良泰史・新津健・新津多恵・野崎 進・野代幸和・野本孝明・秦野昌明・林部 光・宮脇実美・村松佳幸・村山美春・室伏徹・目黒明彦・望月和幸・山路恭之助・山下孝司・山寺仁太郎・山本寿々雄・吉田泰幸・吉本洋子・和田和哉
旧明野村教育委員会・上野原町遺跡調査団・旧上野原町教育委員会・上野原市教育委員会・旧大泉村教育委員会・旧勝沼町教育委員会・旧境川村教育委員会・旧櫛形町教育委員会・釈迦堂遺跡博物館・旧須玉町教育委員会・旧高根町教育委員会・都留市教育委員会・旧豊富村教育委員会・旧長坂町郷土資料館・旧中道町教育委員会・南部町教育委員会・韮崎市教育委員会・旧白州町教育委員会・笛吹市教育委員会・北杜市教育委員会・旧御坂町教育委員会・南アル

プス市教育委員会・旧武川村教育委員会・山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター・山梨市教育委員会

引用文献目録(五十音順)

- 雨宮正樹 1987『西原遺跡・当町遺跡』
石神孝子他 2003『大木戸遺跡』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第205集
伊藤公明 1996「寺所第2遺跡」『北巨摩市町村文化財担当者会年報』平成7年度
関間俊明他 2001『石之坪遺跡・西地区』
岡野秀典 1988『駒平遺跡』『豊富村埋蔵文化財調査報告書』第7集
奥山和久 1998「大堀Ⅱ遺跡」『山梨県史』資料編1
小野正文 1986『釈迦堂Ⅰ』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第17集
同 1987『釈迦堂Ⅱ』同第21集
上川名昭 1971『甲斐北原・柳田遺跡の研究』
同 1977『上石田遺跡』
櫛原功一 2004「土偶付土器の発見・天神堂遺跡(南部町)の調査成果」『帝京大学山梨文化財研究所報』第48集
同 他 2000『石之坪遺跡・東地区』
小西直樹 1993『上野原小学校遺跡』『上野原町埋蔵文化財調査報告書』第6集
小林知生 1954「山梨考古資料」『山梨大学学芸学部研究報告』第5号
小林広和 1978『安道寺遺跡』
小宮山隆 1998『酒呑場遺跡G地区』『長坂町埋蔵文化財調査報告書』第11集
佐野 隆 1997「平林遺跡」『八ヶ岳考古』平成7年度年報
同 2004「明野町諏訪原遺跡」『八ヶ岳考古』平成15年度年報
柴田常恵 1910「人面を付せる石器時代の土器把手」『東京人類学雑誌』第26巻296号
清水 博 1998「鋳物師屋遺跡」『山梨県史』資料編1
志村滝蔵 1965『坂井』
杉本 充 1997『雑木遺跡』
高野玄明他 1996『九鬼Ⅱ遺跡』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第118集
谷口一夫 1959「黒駒発見の中期縄文土器」『富士国立博物館研究報告』第2号
同 1967「八ヶ岳東南麓の中期縄文式土器・山梨県北巨摩郡高根町北割遺跡出土の土器について」『甲斐考古』第2号
同 他 1966「宮谷B地区出土の顔面把手」『中央自動車道東京・富士吉田線の新設に伴う発掘調査報告書』
鳥居龍蔵 1924『諏訪史』第1巻
長沢宏昌 1987『釈迦堂Ⅲ』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告』第22集

同・中山誠二 1986『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜玄井場遺跡』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告』第16集

中道町教育委員会 1972『甲斐の国中道町の文化財』

中村日出男 1970「顔面把手1」『郵政考古』第1号

同 1979「顔面把手5」同第5号

同・奥 孝行 1974「山梨県道志村神地出土の顔面把手」『考古学ジャーナル』第92号

中山誠二 1987『上の平遺跡』

同・丸山哲他 1994『宿尻遺跡』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第81集

仁科義男 1935「山梨県出土の石器時代土偶」『考古学雑誌』第23巻第20号

野崎 進 2002『西原遺跡・柳原遺跡（2次）』『境川村埋蔵文化財調査報告書』第17集

野代幸和他 1997『酒呑場遺跡（第1・2次遺構編）』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第135集

野中完一 1904「巻末図の説明」『東京人類学雑誌』第19巻第215号

畑 大介 1983『釈迦堂遺跡周辺分布調査報告書』

藤森栄一 1968「原始時代」『下諏訪町史』上巻

船窪 久 1930「山梨県北巨摩郡発見の土偶」『史蹟名勝天然記念物』第5集第8号

武藤 盈 1962「山梨県小淵沢岩久保発見の土器」『信濃』第14巻第3号

村石真澄 1994『上の平遺跡第6次調査・東山北遺跡第4次調査・銚子塚古墳南東部試掘』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告』第94集

望月和幸他 1999『速報・縄文のムラ』

同他 2004『桂野遺跡』旧御坂町教育委員会

山路恭之助他 1987『津金御所前遺跡』『須玉町埋蔵文化財報告』第4集

山下大輔他 2001『長田口遺跡』『橿形町文化財調査報告』第18集

山梨県立考古博物館 2004『縄文の女神』

山本寿々雄 1971『富沢町の先史文化』

山本茂樹他 1996『甲ツ原遺跡Ⅱ』『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書』第114集

吉本洋子・渡辺 誠 1994「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」『日本考古学』第1号

同・同 1999「同追補」『日本考古学』第8号

同・同 2005「同追補2」『日本考古学』第19号

渡辺 誠 1995「人面装飾付の釣手土器」『比較神話学の展望』

同 1998「人面装飾付注口土器と関連する土器群について」『七社宮』福島県浪江町教育委員会

同 2004「縄文の女神—人面・土偶装飾付土器にみる縄文人の精神世界—」『縄文の女神』山梨県立考古博物館

追補

表2中に次の漏れあり。ただし、表1・3には変更なし。
新番号55と56の間に、旧番号180の北杜市（旧大泉村）金生遺跡の1（ⅢB、曾谷式）、2（ⅢC、曾谷～安行Ⅰ式）がはいる。